

中世のなかに 生まれた近世

山室恭子

yamamuro kyoko



中世のなかに生まれた近世

常州大学図書館

藏書章

山室恭子

講談社学術文庫

山室恭子（やまむろ きょうこ）

1956年生まれ。東京大学文学部卒業。同大学院人文科学研究科博士課程中退。文学博士。現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授。専攻は、日本史。主な著書に、『黄金太閤』『群雄創世紀』『黄門さまと犬公方』『江戸の小判ゲーム』などがある。



定価はカバーに表示してあります。

ちゆうせい う きんせい
中世のなかに生まれた近世
やまむろきょうこ
山室恭子

2013年5月9日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 豊国印刷株式会社

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Kyoko Yamamuro 2013 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[国]（日本複製権センター委託出版物）

ISBN978-4-06-292170-1

目次

中世のなかに生まれた近世

序	3
---	---

一 東国の大名たち	21
-----------	----

後北条氏	22
------	----

概況	22
----	----

内容	26
----	----

印判状化の意味したもの	42
-------------	----

補足三題	58
------	----

1 年記と書止文言	59
-----------	----

2 当主の代替り	69
----------	----

3 支城主の文書	72
----------	----

武田氏	76
-----	----

概況	76
----	----

内 容 80

年記と書止文言 89

穴山氏 91

今川氏 93

概 況 93

内 容 95

年記と書止文言 100

上杉氏 103

概 況 104

内 容 106

年記と書止文言 111

佐竹氏 113

天正十八年以前 115

天正十九年以後 121

小括 127

二 西国の大名たち 133

毛利氏 134

二頭政治期 134

天正十六年の変化 145

1 形式 145

2 内容 154

3 ふたたび形式 161

元春と隆景 168

尼子氏 173

大友氏 181

六角氏	大内氏	大内氏・六角氏	書式	内容	二頭政治期	概況	島津氏	印判状	書式	内容	二頭政治期	概況
213	211	210	205	201	198	196	196	192	189	187	183	181

中括 東と西と 217

三 東北の小宇宙 243

伊達氏 245

植宗・晴宗・輝宗 245

政宗 248

書状 259

奥羽の諸氏 262

A 戦国期に印判状を積極的に用いた大名 263

B 戦国期に印判状を部分的に用いた大名 269

C 戦国期に印判状を用いなかった大名 273

四 天下人たち 285

信 長 287

概 況 287

二つの轉換期 290

内 容 296

書 式 305

「御判錢出すべからず」 313

秀 吉 322

概 況 323

内 容 326

文書の宛先、文書の値段 336

書 式 346

秀 次 357

家 康 363

概	内	書
況	容	式
363	367	383

黒と白と——旅のおわりに……………	393
-------------------	-----

文献リスト……………	407
------------	-----

謝 辞……………	410
----------	-----

用 語 集……………	416
------------	-----

学術文庫版あとがき……………	417
----------------	-----

挿図挿表目次

後北条氏

表1 五年ごとの残存量の推移……………三

表2 宛先ごとに分類……………二五

表3 内容ごとに分類……………二七

図1 系ごとの印判状況の進行状況……………四三

表4 年記の記しかたごとに分類……………六二

表5 判物を署名の有無で分類……………六二

表6 内容ごとにみた年記の記しかた……………六三

表7 書止文言ごとに分類……………六四

武田氏

表8 五年ごとの残存量の推移……………七

図2 永禄8-9年を境とする書式の変化……………七九

表9 内容ごとに分類……………八二

表10 年記の記しかたごとに分類……………九〇

表11 書止文言ごとに分類……………九〇

今川氏

表12 十年ごとの残存量の推移……………九四

表13 内容ごとに分類……………九五

表14 年記の記しかたごとに分類……………一〇一

表15 書止文言ごとに分類……………一〇二

上杉氏

表16 十年ごとの残存量の推移……………一〇五

表17 内容ごとに分類……………一〇七

表18 年記の記しかたごとに分類……………一二二

表19 書止文言ごとに分類……………一二三

佐竹氏

表20 天正18年以前の発給文書の状況……………一二六

表21 義宣の印判状況……………一二三

佐竹氏印章一覧……………一二五

毛利氏

表22 各当主の発給した文書総数とその内訳……………一二五

図3 誰から文書を貰うのか——官途状類の場合……………一二七

表23 誰から文書を貰うのか——感状の場合……………一二九

図4 誰から文書を貰うのか——宛行状や安堵状の場合……………一二三

図5 誰から文書を貰うのか——感状を除く文……………一二三

	書全体の場合……………	一四三
表 24	天正16年における署名と敬称の変化……………	一四七
図 6	表24を相関図にしてみると……………	一四七
表 25	署名の変化を寺社宛てと士宛てに分類……………	一五三
表 26	表25の有署名のなかをさらに分類……………	一五三
図 7	輝元以前の相関図……………	一五三
図 8	輝元以後の相関図……………	一五三
表 27	天正16年を境とする輝元の文書内容の変化……………	一五五
表 28	内容の変化を寺社宛てと士宛てに分類……………	一五五
表 29	各当主の文書を内容ごとに分類……………	一五九
図 9	誰から文書を貰うのか——輝元・秀就期の官途状類の場合……………	一六〇
表 30	各当主の文書を書止文言ごとに分類……………	一六三
表 31	尼子氏の当主ごとの書止文言の変遷……………	一七三
表 32	毛利氏の文書を内容ごとに分類……………	一七九
大友氏		
表 33	五年ごとの残存量の推移……………	一八三
表 34	内容ごとに分類……………	一八八

島津氏

表 35	五年ごとの残存量の推移……………	一九七
表 36	内容ごとに分類……………	二〇一
表 37	年記・書止文言ごとに分類……………	二〇五
大内氏		
表 38	内容ごとに分類……………	二二一
六角氏		
表 39	内容ごとに分類……………	二二四
中括 東と西と		
図 10	列島の上にフォッサ・マグナを描く……………	二三二
図 11	豊臣期以降の状況……………	二三三
伊達氏		
表 40	各当主の発給文書の状況……………	二四六
伊達氏印章一覧……………		二五〇・二五一
表 41	書状の状況……………	二五九
奥羽の諸氏		
表 42	奥羽諸氏大一覧……………	二六四・二六七
信長		
表 43	年ごとの残存量の推移……………	二八八
表 44	内容ごとに分類……………	二九七
表 45	年記の記しかたごとに分類……………	三〇五

表 46	書止文言ごとに分類……………	三〇七
表 47	署名・敬称ごとに分類……………	三〇九

秀吉

表 48	年ごとの残存量の推移……………	三四
表 49	内容ごとに分類……………	三七
表 50	内容分布の年ごとの変遷……………	三八
表 51	内容ごとの印判状況の進行状況……………	三四
表 52	年記の記しかたごとに分類……………	三七
表 53	書止文言ごとに分類……………	三七
図 12	署名―敬称ごとに分類……………	三九
表 54	秀次の文書の状況……………	三八

家康

表 55	年ごとの残存量の推移……………	三四
表 56	内容ごとに分類……………	三八
表 57	内容分布の期ごとの変遷……………	三九
表 58	内容ごとの印判状況の進行状況……………	三七
表 59	年記の記しかたごとに分類……………	三四
表 60	書止文言ごとに分類……………	三四
図 13	署名―敬称ごとに分類……………	三五

中世のなかに生まれた近世

山室恭子

講談社学術文庫

序

むかしむかしあるところに、となりあつた二つのくにがありました。けわしい山がちな東のくにと、ゆたかな海にめぐまれた西のくにです。東のくにをおさめていたのは、りんとしたきしよの黒の王さま、西のくにをおさめていたのはおだやかでいつくしみぶかい白の女王さまでした。

黒の王さまのくにでは、まいにちけわしい自然とたたかいながらくらしていかなければならなかったので、みんなが力をあわせてきびきびとはたらいていました。王さまもそのせんとくに立つて、川をせきとめたり町をつくったり、いっしょうけんめいはたらきました。いっぽう、白の女王さまのくにでは、ゆたかな自然のおかげでみんなのびのびとくらし、うつくしい文化の花をさかせていました。白の女王さまのけだかくいつくしみぶかいおひとが、くにのすみずみにまでいきわたって、平和な日々がながれていました。

あるとき、悲しいできごとがおこりました。戦争です。ささやかないきちがいのもとで、二つのくにのあいだで、たたかいがはじまつてしまったのです。

くる日もくる日もはげしいたたかいがつづき、たくさんの血とたくさんのなみだがながさ